

シベリアの言語

Languages in Siberia

2017/08/26

DEEP ACID

目次

第1部：言語学概論と国内言語

○主旨、目指すもの

○言語学とは

- ・音声学、音韻論
- ・語彙論、統語論
- ・意味論、語用論
- ・文字論

○日本の中の外国語

- ・琉球語(ウチナーグチ)
- ・アイヌ語
- ・欧州国家の外国語

第2部：シベリアの言語

○語族

○言語文化が滅びる理由

○少数言語のある地域と暮らし

○シベリア言語について

- ・古シベリア諸語
- ・エスキモー・アレウト語族
- ・デネ・エニセイ語族
- ・ケツ語
- ・ケツ民族
- ・能格言語について

○まとめ

○主旨、目指すもの

言語学に興味を持ってもらいたい

学生時代に言語学はかじっていましたが、か
とって私は研究者ではありません。専門的な
話ができないし、ここはそこまで専門的な話を
する場でもない。趣味としての言語学の範囲で、
皆さんに言語学に興味を持ってもらうための発
表です。

ことばを“手段”としてではなく“対象” として考察する

日本人からすると、いや日本人以外でもたいていの人にとっては「外国語を学ぶ」という行為は、相手の国に行ったり、あるいは国内の外国人とコンタクトを取るための“手段”として学ぶ訳ですが、言語学が趣味とは、外国語を学ぶことが“目的”だと言う大きな違いがあります。もちろん、言語学は学際研究として他の分野の専門家にとっても様々な有用な知見を与える学問です。

- 論理学、数学のような表現の“形式”について、世界で様々な表現方法が用いられていることを研究している言語学は大きな知見を与えています。
- 心理学、精神医学などの人間の“こころ”をテーマとした学問においては、やはり“こころ”の表現はジェスチャー、行動の癖、描画などと等しく言語の表現が研究対象になります。
- 民族学にも当然重要な知見をもたらします。言語はそれぞれの民族にとっての重要なシンボルです。専門的に語彙や文法の特徴は民族の特性を見いだすこともできますが、もっと素朴に、石川啄木が上野駅に故郷の方言を聞きに行くような、分かちがたい民族の誇りを言語は内包しています。

少数言語にスポットを当てたい

私たちの日常では日本語を含め、英語、中国語、フランス語など世界的な共通言語lingua francaにしか接しませんが、現在の世界には約6000強の言語があると言われてしまいます。lingua francaはごく一部、世界の言語の大半は少数言語です。天然記念物保護されている動植物のように、こうした言語も消滅の危機にあり、保護する必要性が叫ばれています。

世界の言語 母語話者人口別ランキング

https://www.translator.jp/rank/language_rank.cgi

1	中国語(北京語・普通話)	8億8500万人	中国
2	英語	5億1000万人	英国・米国・カナダ・オセアニア
3	ヒンディー語	4億9000万人	インド
4	スペイン語	4億2000万人	スペイン・中南米諸国
5	アラビア語	2億3000万人	アラブ諸国・中東・北アフリカ
6	ベンガル語	2億2000万人	バングラディッシュ
7	ポルトガル語	1億7000万人	ポルトガル・ブラジル
8	ロシア語	1億7000万人	ロシア
9	日本語	1億2500万人	日本
10	ドイツ語	9800万人	ドイツ・オーストリア・スイス
11	中国語(広東語)	8000万人	中国(香港、マカオ、広東省)
12	ジャワ語	7550万人	インドネシア
13	韓国語(朝鮮語)	7500万人	韓国・北朝鮮
14	フランス語	7200万人	フランス・アフリカ諸国
15	中国語(びん語、福建語)	7000万人	中国(福建省、海南省)
16	ベトナム語	6700万人	ベトナム
17	テルグ語	6835万人	インド
18	マラーティー語	6474万人	インド
19	タミル語	6300万人	インド
20	トルコ語	5900万人	トルコ
21	ウルドゥー語	5800万人	パキスタン

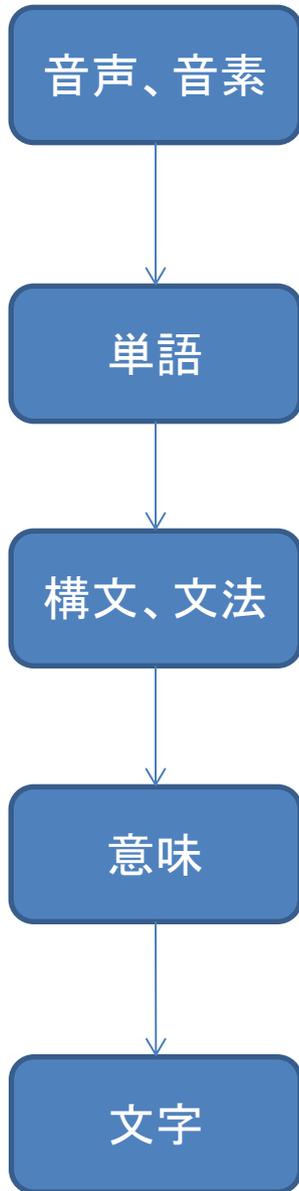
※出典:2001年中日新聞に2008年以降各種人口統計を加味

○言語学とは

言語学とは

厳密な定義ではなく、大雑把に4種類に分けてみました。(文字論は言語の成立に必須ではありません)

- 音声学(phonetics)、音韻論(phonology)
- 語彙論(Lexicon)
- 統語論(syntactics)
- 意味論(semantics)、語用論(pragmatics)
- 文字論(Logographic Writing Systems)



言語コミュニケーションのベースである音声をどのように認識、弁別しているかを研究。

音素の組み合わせで組み合わされる単語。単語と言っても、活用語尾か助詞や前置詞などの補助語か。

更に単語を組み合わせせて分を作る。文の組み立て方によって意味にも影響がある。

意味は単語と文法により一意的に決まるものではない。慣用句その他の方法でメタファー(隠喩)が意味を左右する。

単純な意思疎通から記録へ。文字の発明は人類が文明を発明する下支えとなった。

音声学(phonetics)、音韻論 (phonology)

先ず、言語の入口である発音。(表音)文字のある言語であれば文字との比較で音素の認識がしやすいですが、文字のない言語を先ず調べるには、どんな音が弁別的(distinctive)かから調べなければなりません。日本語は母音は“あいうえお”の原則5つ(実際にはこれ以外の母音もあります)、子音も10程度ですが、他の多くの言語がこれより遥かに多様な母音、子音を音素として弁別的に認識します(もちろん逆に少ない言語も存在します)。カタカナ表記の“マウス”では英語のねずみmouseなのか口mouthなのか区別できません。逆に、日本語では“はし”がイントネーション※の置き方で「橋」と「箸」と「端」と意味を変えますが、英語ではこのような芸当はありません、イントネーションはあくまでも強調emphasisに対してのみ有効です。

※音素(子音+母音)以外の構成要素

- ・イントネーション((音節をまたがる)抑揚、音階の高低)
- ・アクセント(強弱)
- ・声調((単音節内の)抑揚、音階の高低)
- ・長母音、二重母音、二重子音
- ・撥音(ちいさな「っ」)

語彙論(lexicology)

文の構成要素を研究する分野。そもそも「単語とは何か」という研究です。大抵の言語で、動詞や形容詞と言った述語は「活用」しますが、どこまでが活用語尾でどこからが述語を補佐する助詞かは議論になります。

→語彙論は一般的にはボキャブラリと呼ばれる。

統語論(syntactics)

文の構造の研究は、その言語を単語と言う要素からどう構造化してとらえるか、と言う言語研究の肝になります。この土台がしっかりしないと、その言語の研究全体が停滞する足枷になります。また、学際研究としては論理学や数学ともつながりの深い分野です。

→一般的には「文法」と呼ばれるもの

意味論(semantics)、語用論 (pragmatics)

音素や語彙と言った個別の言語の研究に比べ、より一般的に言語を使って意味や内容を伝えることについての研究です。自然言語は言いたいことをすべてことばにするわけではなく、主語を始め付帯的な状況説明は文脈contextに依存し省略されます。そのやり方が言語によって異なるので、翻訳の際の行間読みのテクニックともなりますが、省略する、あるいは完結に説明する(日本語では「雨が降る」のように天候表現において主語述語そろえますが、英語では形式主語を立ててit rainsのように表現する、つまり実質的に述語のみで表現しようとしています)表現が、その民族の文化的背景と密接に関わり、民族学などとも深い関わりのある分野です。

語用論は主に言語の運用performanceを研究する分野(文脈研究)

文字論 Logographic Writing Systems

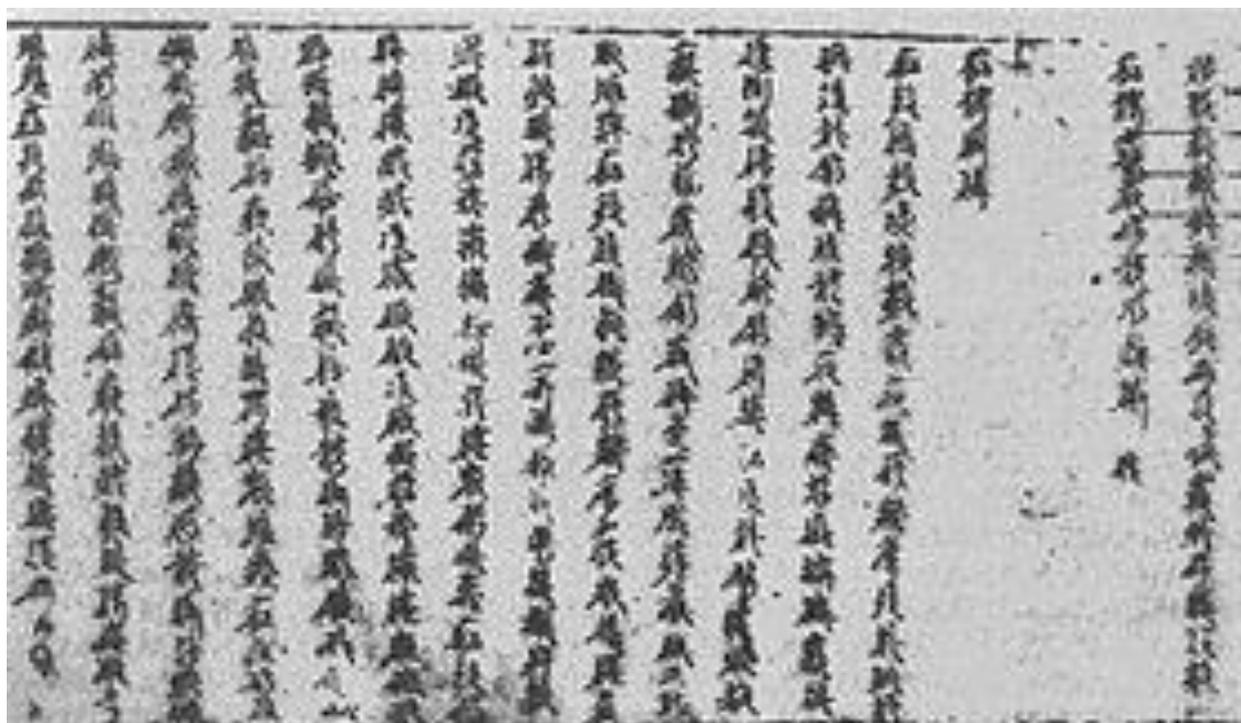
文字論は日本人にとって関心を持ちやすい分野ではないでしょうか。文字には表音文字と表意文字の大きく2つに分けられますが、現在、世界的に見て表意文字は漢字くらいしかありません。ヴェトナム文字や西夏文字などは使われていません。しかも日本語はその表意文字と仮名と言う表音文字を混在させて使うと言う極めてまれな言語です。

その一方、文字は“究極のデザイン”と言われていています。日本語の毛筆書体も十分に芸術性がありますが、ありふれたローマ字にも古書などで美しい書体(必然的にラテン語が多くなりますが)があります。個人的にはアラビア語やペルシャ語で使われるイスラム文字が最も美しいと考えています。あの文字の美しさがあったがゆえに、イスラム教はキリスト教や仏教のようにアイコン(絵画や仏像など、信仰対象の神仏を視覚化したもの)を持たずに現代まで生き延び、かつますます信仰者人口を伸ばしている、と言っても過言ではない、と考えています。

- ヴェトナム文字(チュノム、現在はクオック・グーと呼ばれるローマ字表記に置き換わった)

𡗗𡗘𡗙𡗚𡗛𡗜
 𡗝𡗞𡗟𡗠𡗡𡗢𡗣
 𡗤𡗥𡗦𡗧𡗨𡗩
 𡗪𡗫𡗬𡗭𡗮𡗯
 𡗰𡗱𡗲𡗳𡗴𡗵
 𡗶𡗷𡗸𡗹𡗺𡗻
 𡗼𡗽𡗾𡗿𡗺𡗻

- 西夏文字



ローマ字活字(グーテンベルクの活字)



- アラビア文字

العربية

- ビルマ文字

မြန်မာစာ:

- モンゴル文字

ᠮᠣᠩᠭᠣᠯ

- グルジア文字

დამწერლობა

その一方で、世界の言語のうち文字を持つものは1割程度に過ぎません(9割の言語は記録がない)。研究文献を残すために強制的にローマ字表記を与えたりしていますが、本質的に言語は話し言葉が中心です。

頭の良い人でも本を読むのは苦手、と言う人はたくさんいます。音声言語は原始人時代(約25万年前)からあるので脳が十分に対応していますが、文字言語は多く見積ってもたかだか数千年の歴史しかなく、脳が文字言語理解する仕組みが十分に発達していないと言われていきます(Dyslexia、難読症)。

○日本の中の外国語

本題に入る前に、先ず日本と言う国の中にも外国語があることを紹介します（眞田個人の見解では2つの外国語が存在）。

- 琉球語
- アイヌ語

琉球語（ウチナーグチ）

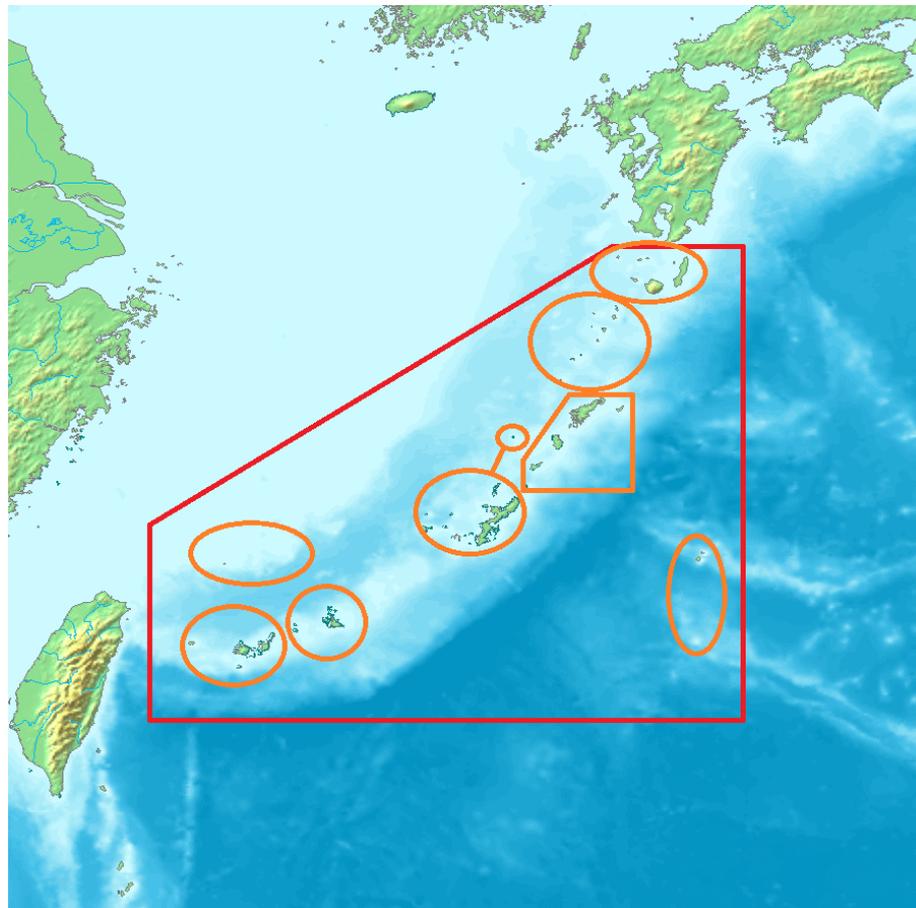
今日では日本語の方言だと考える説の方が優勢です。ぶっちゃけ、沖縄県でもラジオテレビのほとんどの番組は標準語の日本語な訳で、そういう環境の中でのウチナーグチは日本語の方言と考えるのが自然でしょう。ウチナーグチが本土の人間に理解できないとしても、それはガチの津軽弁が理解できないのと同レベルと言えます。

しかし、私が琉球語を独立した言語と見なしたい理由は、**ウチナーグチの中にさらにまた方言があるから**です。北端の薩南諸島、奄美諸島から南端の石垣島、八重山諸島まで、本州の北端と南端と変わらぬ距離があります。これだけ島々が離れていけば、一口でウチナーグチを語れません。特に沖縄の場合は陸続きでない分、本州の北端と南端の方言の差異より大きいのです。

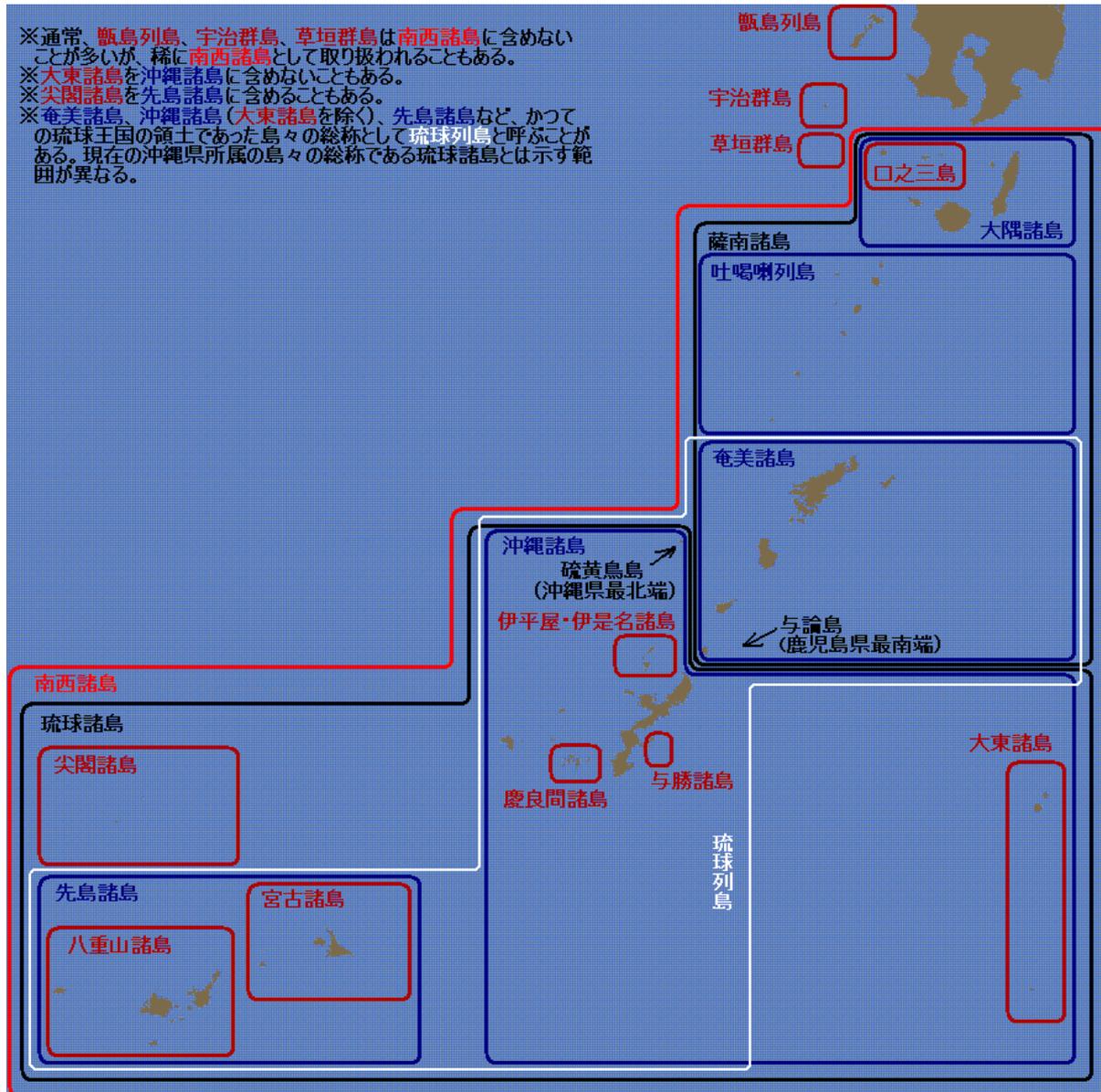
あと、**八重山語にはなんと独立した文字＝カイダー文字（なんと象形文字！）さえあります**。ただ、これは政治的な背景（人頭税を徴収するために人工的に作られた文字）があり、一般的な利用はされていなかったことから、簿記のような一種の職業スキルと考える方が正しいかもしれません。

南西諸島(鹿児島県奄美諸島も琉球語圏と考えるので、琉球諸島ではなくこの名称を用いる)は下記の地図の通り、本州の大きさに近い広い範囲に分布する。

<https://search.yahoo.co.jp/image/search?rkf=2&ei=UTF-8&p=%E7%90%89%E7%90%83%E8%AB%B8%E5%B3%B6+%E5%9C%B0%E5%9B%B3#mode%3Ddetail%26index%3D17%26st%3D561>



http://www.h5.dion.ne.jp/~s_coral/webmaster/nanseisyoto.html

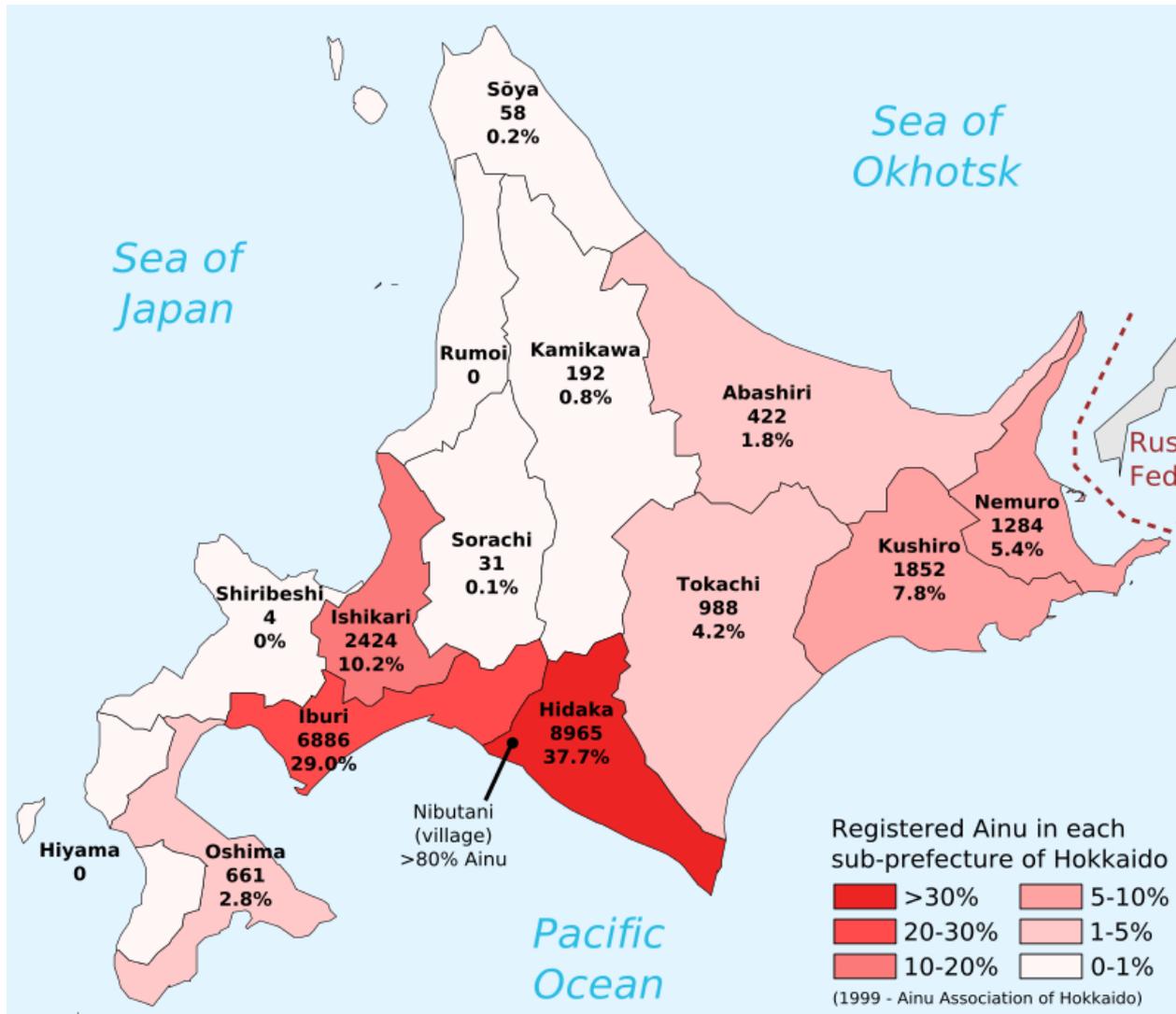


アイヌ語

アイヌ語は間違いなく日本語とは全く別物と言えます。つまり、語族からして違います。日本語は語族としてはアルタイ語族に属します。モンゴル語や韓国語が属する語族です。

しかしアイヌ語はアルタイ語族と見なす学者はいません。むしろ、エスキモー・アリューート語族に近いのではないかと言われています(今のところはどこかの語族に属すると確定した学説はない)。

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A2%E3%82%A4%E3%83%8C>



欧州国家の外国語

外国(ヨーロッパ)でも同様の問題はあります。イギリスは英語だけではなく、アイルランド島(=スモール・ブリテン島)では**ゲール語**が話されています(グレート・ブリテン島のスコットランドにもゲール語はあります、Edinburghエジンバラのような英語らしからぬ地名に名残が見られます)し、フランスだって本来はフランス語と**オック語**(現代では方言に成り下がってしまったが)の2ヶ国語の国でした(ナポレオン帝政下でオック語は壊滅に近い状態に追い込まれました)、スペインにはあの**バスク語**(ヨーロッパのど真ん中にインドヨーロッパ語族に属さない言語が現代も話されている!)があります(もともとのスペイン語はカスティーリヤ語と呼ばれていました)。

今回はここまで。